デジタルマーケティング研究機構

【Release】

2026 年 11 月 27 日
公益社団法人日本アドバタイザーズ協会
デジタルマーケティング研究機構

第 14 回 Web グランプリ Web 人部門 受賞者発表

公益社団法人日本アドバタイザーズ協会 デジタルマーケティング研究機構（所在地：東京都中央区銀座 代表幹事：中村 俊之）は、第 14 回 Web グランプリ（https://award.dmi.jaa.or.jp/）の「Web 人部門」において、Web 人賞の受賞者を決定いたしました。
「Web 人賞」は、有識者で構成される Web 人賞選考委員会による審査会、及びデジタルマーケティング研究機構 幹事会で審議の結果、次の方々に贈賞いたします。

【Web 人賞】（氏名 50 音順）

坂本 和隆 氏　（Netflix コンテンツ部門 バイス・プレジデント）
田口佳央莉氏　（大日本印刷株式会社 コーポレートコミュニケーション本部 Web 戦略室 Web 基盤推進グループ）
中川 悠介 氏　（アソビシステム株式会社 代表取締役）
古市 優子 氏　（Comexposium Japan 株式会社 代表取締役社長）
松本紗代子氏　（Cloudflare Japan 株式会社 日本代表 兼 日本地域統括バイスプレジデント）
籾山 悠太 氏　（株式会社集英社 少年ジャンプ＋編集長（デジタル担当））

Web 人部門は、「人」にフォーカスした賞として、優れたウェブサイト、ウェブプロモーションにとどまらず、広くデジタルを活用したマーケティング、コミュニケーションなどの原動力となった人物にフォーカスをあて、その方の功績を讃えて表彰しており、前身となる「Web クリエーション・アウォード」（2003 年～2012 年）から毎年開催しています。

昨年までの受賞者はこちらからご覧いただけます。
https://award.dmi.jaa.or.jp/winner/

【お問合せ先】

公益社団法人日本アドバタイザーズ協会 デジタルマーケティング研究機構　Web グランプリ事務局
受付時間：10：00～17：00＜平日のみ＞ TEL：03-3543-5855
e-mail：award-info@dmi.jaa.or.jp
お問合せフォーム：https://award.dmi.jaa.or.jp/inquiries

デジタルマーケティング研究機構

【Release】

第 14 回 Web グランプリ　Web 人部門　受賞者一覧

【Web 人賞】（氏名 50 音順）

坂本 和隆 氏

（Netflix コンテンツ部門 バイス・プレジデント）



坂本氏は、Netflix の日本でのサービス開始のタイミングで最初の日本の作品クリエイティブ担当として入社され、「全裸監督」などの話題作や「今際の国のアリス」などの世界的ヒット作をプロデュース。
現在は Netflix コンテンツ部門バイス・プレジデントとして、日本発の実写とアニメ、アンスクリプテッド作品のコンテンツ制作およびビジネス全般、ライブ配信を統括し、日本の映像視聴文化のデジタルシフトや、日本の映像作品の世界への拡がりに大きく貢献されています。
このことにより、Web 人賞に相応しい人物として表彰いたします。

田口 佳央莉 氏

（大日本印刷株式会社　コーポレートコミュニケーション本部 Web 戦略室 Web 基盤推進グループ）



田口氏は、ウェブ解析士資格の最上位である「ウェブ解析士マスター」を取得しており、事業会社のウェブ担当者としては希少な高度専門人材です。その専門知識と実務経験を生かし、社内のコンテンツオーナーに対して適切な情報提供や改善提案を行い、企業サイト全体の品質向上に貢献しています。
さらに、自らの知見を社外のウェブ担当者にも惜しみなく共有し、事業会社におけるウェブ担当者の知識・スキル向上にも寄与しています。
こうした社内外にわたる継続的な取り組みと功績は、称賛に値します。

中川 悠介 氏

（アソビシステム株式会社 代表取締役）



中川氏は、アソビシステムの代表として、「きゃりーぱみゅぱみゅ」や「新しい学校のリーダーズ」「KAWAII LAB.」など新しい時代を代表するアーティストを次々に生み出している方です。特に創業当初から YouTube などのデジタル活用に尽力され、最近では TikTok を通じた楽曲の話題化の成功事例を多数生み出すなど、日本の音楽業界におけるデジタル活用の先駆者として業界をリードされており、「Web 人賞」にふさわしい人物であると考え、本賞を贈ります。

古市 優子 氏

（Comexposium Japan 株式会社 代表取締役社長）



古市氏は、コムエクスポジアムの日本の代表として、アジア最大級のマーケティング国際カンファレンス「ad:tech tokyo」を 2026 年で 18 回目の開催に導くなど、日本のデジタルマーケティング業界を代表するイベントやコミュニティを運営し続けてこられています。また 2019 年から「ad:tech tokyo」の女性登壇比率を 6%から 30%に引き上げることを提言し、それを達成するなど、業界におけるジェンダーバランスやダイバーシティに対する問題提起をおこなわれるなど、マーケティング業界の変化をリードされています。

松本 紗代子 氏

（Cloudflare Japan 株式会社 日本代表

兼 日本地域統括バイスプレジデント）



クラウドフレアは、良質なコンテンツが AI の無断学習により消費され、クリエイターや Web メディアの対価が損なわれている現状に対し、強固なテクノロジーと明確な理念をもって Web の持続可能性を守るリーダーシップを発揮しました。
AI 時代の急激な変化の中で、単なる技術提供にとどまらず、コンテンツ制作者が報われる「健全で持続可能な Web エコシステム」の再構築に尽力する同氏の功績は極めて大きく、「Web 人賞」にふさわしい人物であると考え、本賞を贈ります。

籾山 悠太 氏

（株式会社集英社 少年ジャンプ＋編集長（デジタル担当））



籾山氏は、集英社でデジタル事業部などを経て、マンガ誌アプリ「少年ジャンプ＋」創刊に携わられた方です。多数の新しい人気マンガを生み出しただけでなく、切り抜きジャンプ＋という漫画のコマを SNS でシェアするサービスを提供するなど、読者の興味喚起を引かれました。さらに、世界に向けた公式マンガ配信サービス「MANGA Plus by SHUEISHA」を自ら発起。日本のマンガコンテンツを、翻訳の壁やタイムラグなく、世界中のファンへ直接・同時に届ける Web インフラを構築しました。グローバルな Web 戦略と、デジタルネイティブな新しいクリエイターエコシステムの創出は、コンテンツビジネスにおける Web の可能性を大きく広げたものであり、その多大な功績を称え、本賞を贈ります。

デジタルマーケティング研究機構

【Release】

Web グランプリとは

Web グランプリとは、デジタル社会の発展に貢献してきた「人」と「サイト」を表彰するために設立されました。
過去 12 回開催し、これまで多くの「Web 人（ウェブジン）」を輩出してきた Web クリエーション・アウォード（Web 広告研究会主催）と、過去 6 回開催し日本の企業ウェブサイトの発展に寄与してきた企業ウェブ・グランプリ（企業ウェブ・グランプリ主催）を統合し、2013 年を第 1 回として開催し、以後、毎年開催しています。
インターネットがすみずみまで行き渡った現在、ウェブサイトは社会にとって欠かすことのできないメディアになりました。特に、SNS が大きな影響力を持つ昨今では、さまざまな情報のソースとしてもウェブサイトの重要性がいっそう高まっており、多くの方々がその運営に地道な努力を捧げています。
この「Web グランプリ」は、ウェブサイトの健全な発展をめざすとともに、【ウェブ関係者のウェブ関係者によるウェブ関係者のための賞】として優れた功績を残した企業及び人物を顕彰し、その労と成果を讃えることを趣旨としています。
表彰部門は大きく 2 つ「Web 人部門」と「企業グランプリ部門」に分かれています。
「Web 人部門」はこれまでの Web クリエーション・アウォードに相当し、ウェブ社会の発展に貢献してきた「人」に授与されます。「企業グランプリ部門」はこれまでの企業ウェブ・グランプリに相当し、各企業のウェブ担当者同士の研鑽により制作・構築された、見本とすべき「ウェブサイト」に授与されます。

【Web 人賞選考委員会 選考委員】
今田 素子　　2013 年 Web 人賞受賞
（株式会社メディアジーン代表取締役 CEO）
徳力 基彦　　2007 年 Web 人賞受賞
（note プロデューサー／ブロガー）
長谷川 敦士　2012 年 Web 人賞受賞
（株式会社コンセント　代表取締役社長）
平田 大治　　2004 年 Web 人賞受賞
（シックス・アパート株式会社　代表取締役 CEO & CTO）
安田 英久　2010 年 Web 人賞受賞
（株式会社インプレス　Web 担当者 Forum 編集統括）
【Web グランプリプロジェクト　運営メンバー】
◇Web グランプリプロジェクトリーダー
新井 隆之（岩崎電気株式会社、デジタルマーケティング研究機構 幹事）
◇Web グランプリプロジェクト プロジェクトメンバー
西田 健（キヤノンマーケティングジャパン株式会社、デジタルマーケティング研究機構 副代表幹事）

デジタルマーケティング研究機構

【Release】

“デジタルマーケティング研究機構” について

日本アドバタイザーズ協会 デジタルマーケティング研究機構（Digital Marketing Institute）は、1999 年 4 月 1 日、社団法人日本広告主協会(現:日本アドバタイザーズ協会)ディジタルメディア委員会内の研究会を母体として発足しました(発足時名称:Web 広告研究会)。
業界の枠を超えてウェブ広告・マーケティングに取り組む全てのプレイヤーによる研究活動を行う場として、インターネット上の広告展開における、さまざまな課題について、広告主と関連企業・団体（広告会社、メディアレップ、媒体社、調査会社、システム提供会社など）が共通の場で研究活動を行うことにより、インターネット上の広告の健全な発展を促進することを目的としています。
定期的なフォーラム・セミナーの開催のほか、各種広告手法の効果実証実験、企業サイトのプロデュースの研究とその評価、個人情報保護問題への取り組み、ブロードバンド・モバイル環境の研究、生活者のメディア接触変化の研究などの幅広い活動のため、6 つの部会と、支部、プロジェクトが 1 つずつ運営されています。

構成は以下のとおり

プラットフォーム部会
データ活用部会
イノベーション部会
西日本支部
コミュニケーション部会
事業・組織マネジメント部会
若手育成部会
Web グランプリプロジェクト

◆会員社（2026 年 10 月 1 日現在）304 社
◆代表幹事　　中村 俊之　（株式会社ポーラ）
◆事務所　　〒104-0061　東京都中央区銀座 3-10-7　ヒューリック銀座三丁目ビル 8 階
◆ホームページ https://dmi.jaa.or.jp